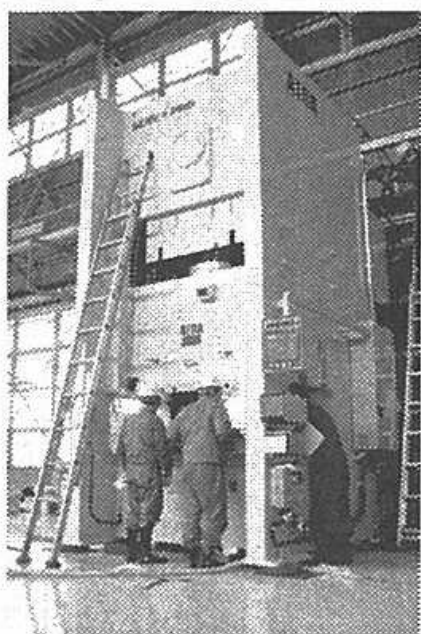


MT用部品、工法転換

協和合金、鉄製をプレスで

【横浜】協和合金（横浜市金沢区、高島真澄社長、045・772・1331）は手動変速機用（MT）シンクロナイザーリングを鉄製にしてプレス工法で生産する技術の開発に着手した。このため福浦工場（横浜市金沢区）に300トのサーボプレス機（写真）を導入した。2011年3月までに生産技術を確認する。



協和合金は現在、MTのギアの同調性を向上する新機構のシンクロナイ

ザークシステム「KHS」を開発しており、欧州のMTメーカーへの供給を目指している。これまで同社はシンクロナイザーリングの素材に銅合金を採用し、鍛造技術で生産していた。

ただKHSの供給を目指す欧州MTメーカーのシンクロナイザーリングは、銅合金製からコスト競争力がある鉄製にシフトしている。さらに低コストの打ち抜きプレスによって、リングの周辺部品加工も可能な製法を確立することで安定的な供給体制を築く。生産技術の開発には300トプレス機を使用し、量産が決まれば1000トクラスの導入も検討する。